



香葉

創刊号

関東学院女子短期大学

香葉会

発行人 山口佳子

代表 横浜市金沢区

六浦東1-50-1

直通 045-787-7859

FAX 045-787-0678

E-mail : kouyukai@nifty.com

第2回
企画

「訪ねてみませんか、
金沢文庫」



昨年に引き続き、会員の皆様に散策のお誘いを企画致しました。身近な「金沢文庫」「称名寺」を、紅葉を楽しみながら散策しませんか。短大には通っていたけど…金沢文庫は通過地点ではなかったでしょう。クリスマスチャンススクールにお寺…まあ…そういうわずに、のんびりと、お友達を誘って参加しませんか。

- 日程 平成15年11月29日(出)
- 時間 午後1時集合(金沢文庫改札口)
- 会費 1,000円(資料代・拝観料・保険など)
- 申し込み方法
香葉会事務局までファックス・はがきで申し込みください。準備の都合上、11月15日(出)までお願い致します。
〒236-8503
横浜市金沢区六浦東1-50-1
FAX 045-787-0678

報告 横浜山手 西洋館めぐり



平成十四年十二月十四日(土)午後一時、港のみえる丘公園に二十一名の参加者。緩やかな日ざしの中、大佛次郎記念館を

目指し、散策開始。歩き出すと同時に、口も良く動き…長い列に。英文科の青柳先生が黒一点での参加。さすが先生、女性陣にも負けず(?)に応戦。何って、おしゃべりに参加。西洋館には、女性館長の腕の見せ所とクリスマス飾りつけに工夫を凝らしていました。山手一一番館のテーマは「ロシア」…サモアールやパトリューシユカ(入れ子人形)などの展示。イギリス館:「イギリス」ピーターラビットの展示。
外人墓地は二グループに分かれて、関東学院中・高の内野先生・小尾先生に案内して頂きました。特に一般の見学とは違い、関東学院創立者、テンネー先生の墓前に花を捧げ、内野先生がハーモニカで讃美歌を奏で、合わせて静かに歌う人もありました。普段では見られない外人墓地を散策できました。

目次

山口佳子新会長挨拶	2
古城房子前会長挨拶	2
吉田博学長挨拶	3
香葉会会則変更	4
実体験型取材 はじめの一步	4
本と旅 岡松和夫先生	6
母校ニュース	7
平成十四年度決算・十五年度予算	7
賛助金	8

今年度から人間環境学部の学生は、外人墓地の墓参を行うようです。

山手二三四番館:「ベルギー」この建物は四世帯の住空間(アパート)です。クリスマスツリーが庭にまで飾られていました。エリスマン邸:「ドイツ」質実剛健的な温かさ。カボチャの種のリース・レースのオーナメント・さり気なく飾られたテークホール:「カナダ」花飾り、テーブルコーディネートも鮮やか。メープルカラーのイメージかな。この建物、セントジョセフカレッジのゲストハウスで、オープンして五ヶ月。新しいイメージが山手の中にそびえていました。
この日は各館で、ミニコンサートが開催されており、フルーツやバイオリンの音が山手の丘に流れていました。皆様のご協力に感謝。(葛)

11月1日(土)
10:00~16:00
「香葉会の部屋」
室の木校地内

「香葉会」の新しいかたち



山口佳子 (国1)

今、手元に同窓会誌『香葉』があります。

短大の前身、関東学院女子専門学校が一九四六年(S21)に設立され四年後に関東学院短期大学となり、一九六二年(S42)には関東学院女子短期大学となり現在の位置付けがなされました。大学とともに運営されていた同窓会がその三年後(S45)に独立し短大独自の同窓会としてのスタートを切りました。その年に発行されたものが第一号です。お金もない、事務所もないと、いうないものづくしの中で始まった『香葉』は、昨年には三十一号を発行することができました。

一号から三十一号までこれは香葉会の活動の記録そのものです。会長の古城房子さんは三十三年もの間、『香葉会』を支え続けて下さいました。

『香葉』を読み返してみますと、S46年二十号には同窓会のしくみを示して「香葉会」の位置付けを一目でわかるようにしてあります。S54

年に「香葉会」の部屋をいただいたこと。S59年にホテル等で開催していた総会の場所を学校に移し短大祭への参加と講演会を開催したこと。

そこからは前向きな姿勢が感じられ同窓会に対する熱い思いを読み取ることが出来ます。そういった事を常に行いながら「香葉会」を支えていただいた月日は何にも換えがたく、ご家族の思いを考え合わせますと本当に感謝の思いで一杯です。

かすかに聞こえていた時代の足音が突然大きな音となり、また変革の時”が来たことを私達は知りました。学長をはじめとする方々が考え抜いた選択をしっかりと受け止め同窓生が一緒になって次の歩みを踏み出していきます。また、今まで役員会、幹事会、年度委員会の多くの方々が、提案し話し合いを重ねた結果としての「温かい同窓会がここにあること」を引き継ぎました。新メンバーがしっかりと自覚し、今後の発展の為にその手助けとなり支えていくことが、私たちメンバーの役割であると考えています。

具体的には、関東学院人間環境学部の大学祭の日は、私たち同窓生が集う日「ホームカミングデー」とすること。

『香葉』をタブロイド版ながら発行すること。

第三に同窓生が気軽に参加し集う会を催すこと。

この三つを柱として活動して参りたいと考えております。

「人間環境学部は私たち卒業生の母校と申すのであります。」という学長の温かい言葉を大切にしたいと考えております。この日(P1参照)は、「香葉会」の場所を設け学校のお知らせ等を用意します。同級生やお友達を誘い合わせて是非いらしてゆっくりしてほしいと思います。

『香葉』の発行については、学校の情報、卒業生の話、同窓生が参加できる講演会情報をしっかり掲載したいと思えます。今号、実体験型取材のページには、法科大学院が併設される小田原校舎を載せています。

第三の集う会にしましては、昨年三十一号巻頭に掲載しました「山手西洋館めぐり」の外人墓地で創立者テナー先生の墓前にお参りをしたように知っているけれども行ったことがない。といったところを中心に企画しています。

「香葉会」は今後も前記のように活動してまいります。一つお願いがございます。

最後の卒業生を迎え必然的に活動が制限されて参ります。つきましては、今年から年会費の振込み用紙を『香葉』に同封させていただいていただきます。賛助金同様どうぞよろしくお願いたします。

最後に『香葉』の卒業生からのお便り「同窓会を終えて」の中の一節

をご紹介しますこの項を締めたいと思います。

「長い人生の道のりの中で学んだのは、たったの二年だったとはいえ、よき学びの場できき師、よき友に恵まれたことの幸せを胸に、家路へと向かいます。」

「香葉会」の新しい歩み



古城房子 (英1)

二〇〇一年、吉田学長が『香葉』の三十号記念誌の中で、短大が大学の一学部になる経過を詳しく説明して下さいましたので、会員の皆様にはもう充分理解して頂いていると思えますが、今年の三月、短大の最後の卒業生を、「香葉会」の最後の会員として迎えました。

来年からは、同窓会としての活動の方法も変わると思っています。

その為の一番の課題は今までの組織の変革でしたが、六月二日の総会に代わる年度委員会で、現在の役員、幹事、年度委員全員の辞任と委員会の解散を承認して戴きました。

私も会長の職を辞し、新しい会長

に、国文科一回の、山口佳子さんが、選出されました。この数年、幹事や会誌の編集長として活躍され、企画力、指導力、実行力に優れた、これ以上の適任者は居ないと若い会員の方達にも支持され、信頼されている方です。

副会長には、浦上恵さん、二十六歳の経営情報科の卒業生が、指名されました。

新生「香葉会」を引っ張っていくのに、最高のコンビです。これからの活動がとて楽しみです。私も一会員として、行事のお手伝いには、参加したいと思っております。

同窓会を立ち上げてから四十二年、香葉会となってから三十三年、私の人生は、「香葉会」と共にありました。初めの頃はお金もなく、事務所もなく、学校の皆様には、どれだけお世話になったことか、ご迷惑もお掛けし、物心両面で助けて戴きました。歴代の学長、事務長、事務局の皆様には心から御礼申し上げます。特に林先生には、短大が室の木キャンパスに移転する多忙を極める時期に、随分色々な事をお願いしてさぞ迷惑に思われたこともあったと思いますが、何時もにこにこ話を聞いて下さって、要求を受け入れて下さった事を思い出します。又、最後の学長吉田先生には新学部創立のご多忙の中、今後の「香葉会」のことに心をくだいて相談ののって戴き、会の存続に力を貸して下さいました。

又先生方にも、いつも「香葉会」のことを、心に懸けて戴いて、ご援助をいただき、ありがとうございます。お蔭様で、会もここまで成長することが出来ました。

又、相吉副会長・井上幹事長・葛城副幹事長はじめ、幹事・年度委員の皆様のご支援があつてこそ、こんなに長い間、楽しくお手伝い出来たと、感謝の気持ちで一杯です。

六月二十三日、合同同窓会の総会の席上で、思いもかけず、学院理事長、内藤先生と短大学長、吉田先生のお名前で、感謝状と記念品を頂戴して身の置き所もなく恐縮しております。只、長くやったというだけのことで、それも、会の為には、決して良い事でない、と思っておりましたから、この様な名誉をお受けする資格はないと、申し訳ない思いしております。これも皆様のお蔭だと思っております。感謝しております。

本当にありがとうございます。これからの「香葉会」の活動に期待して、ご協力とご支援を心からお願ひ申し上げます。

*日本画教室

第一・第三水曜日 ルツ館和室
会費 月三、〇〇〇円
(申し込み随時)

*陶芸教室(二回)

平成十六年二月頃の予定

学 長 挨拶



吉田 博

三月十八日、関東学院女子短期大学の卒業式が室の木キャンパスのチャペルで挙行され、五百有余人の淑女が社会に旅立ちました。室の木キャンパスのチャペルでの卒業式は今回で最後ということになります。昨年、若干名の休学者がおり、それらの学生諸嬢が復学をし、勉学に励んでおりますので、彼女たちの卒業をまって関東学院女子短期大学は閉学ということになります。

関東学院女子短期大学の足跡を振り返ってみますとその源流は昭和二十一年に発足した関東学院女子専門学校に溯ることが出来ます。昭和二十五年、女子専門学校は学制改革により、英文科と家政科の二学科からなる関東学院短期大学部に生まれ変わり、昭和三十二年、関東学院短期大学部は、関東学院短期大学に改組されるとともに、専攻科英語専攻が設置され、昭和四十一年には関東学院短期大学に国文科が設置されました。

翌年の昭和四十二年、英文科の第二部が廃止されるとともに、関東学

院短期大学は関東学院女子短期大学と名称を変更し、名実ともに女子教育に専念することとなりました。その後の女子短大は発展の一途をたどり、昭和四十四年の家政科の家政専攻と食物栄養専攻との専攻分離、昭和四十八年の幼児教育科の開設、昭和六十年の家政科生活文化専攻の増設、昭和六十二年の経営情報科の開設、平成六年の専攻科食物栄養専攻の開設、そして今回の人間環境学部への改組・転換に至ったわけであり

ます。このように人間環境学部は女子短期大学の存在なくしては誕生し得なかったものです。香葉会の皆さんには、今後も関東学院女子短期大学の母体のもとに誕生した人間環境学部の行く末を温かく見守っていただきたいと思ひます。そして、関東学院女子短期大学の卒業生の母校は、この室の木キャンパスに立つ人間環境学部であると思ひていただきたいと思います。なお、六月二十三日、合同同窓会の総会が開催され、香葉会の執行部が交代されたとのこと。香葉会の会長として三十有余年もの長い間、関東学院女子短大のために多大なる奉仕をなされ、今回の改組転換においても大いなる励ましと全面的バックアップをいただいた古城会長、相吉副会長、幹事ならびに年度委員の方々に心より御礼を申し上げますとともに、山口新会長、浦上新副会長を始めとする香葉会執行部の皆さんの今後のご活躍をお祈りいたします。

実験型取材

『はじめの一步』

小田原キャンパスを訪ねて

浦上 恵 (経情10)

学生時代、他の学科の研究室が妙に気になったりだとか、それぞれの科独特の授業なんか結構興味を持ちたりだとか、そういった経験はありませんか??

ワタシはあります。大いにありました。気になりました。(笑) 例えば、食物栄養のあの白衣姿での授業、幼教の実習室に飾られた工

品。気になりませんでしたか? 今回の実験型取材は、そんな「気になる隣のお庭をちよいと拝見」というコンセプトを基に、小田原まで足を伸ばしました。つまり、ワタシ達の「気になるレベル」は他の学科という垣根を軽く越え、他のキャンパスにまで行ってしまったというワケです。(笑)

今回は、関東学院大学小田原キャンパスにある「法学部」にお邪魔して来ました。

実験型シリーズで最も遠方! プチ旅行! 東海道線に揺られながら(もちろんボックス席)、だんだんと長閑になって行く車窓の景色に、都会での労働ですんだ心を癒されつつ、梅雨の晴れ間が眩しい小田原へ到着。駅前のバス停留所からスクールバスに乗車させて頂き、目指す法

学部キャンパスへ向かいます。このスクールバス、関東学院大学の学生であれば、学生証を見せて無料で乗車できるというもの。んー、羨ましい。ちなみに、有料の定期バスも出ているとのコト。ワタシ達はもう学生ではありませんが、お願いして乗せて頂きました。車内は当然学生のみ。なんだか不思議な緊張と空気を味わいながらバスに揺られること十五分強。「こりゃバスなしでは通えないよな。」といった感想を思わず抱いてしまっような道のりでした。キャンパスに到着した編集委員一同の最初の感想は「なんていい環境なんだ!」です。室の木キャンパスも相当いい環境だと思っていました。ココのそれには負けず。それ程の恵まれた環境。風も爽やか〜♪で実に長閑。キャンパスの周り一面ミカン畑。口々に「いいね。気持ちいいね。」なんて言っていると、今回の取材でお世話になる、事務次長の林さんが登場。林次長の引率で、まずは教育研究のための部屋がある一号館を通して頂き、小田原キャンパス誕生秘話などを伺いました。



香葉会会則

- (総会)
第1条 本会は香葉会と称し、本部を関東学院大学人間環境学部内におく。必要に応じて支部を設けることができる。
(目的)
第2条 本会は関東学院建学の精神に則り、会員相互の親睦をはかり、母校の発展向上に積極的に協力し、もって文化発展に貢献することを目的とする。
(事業)
第3条 本会は第二条の目的を達するために次の事業を行う。
会報の発行
会員名簿の管理
その他必要な諸事業
(会員)
第4条 本会は次の会員をもって組織する。
正会員 女子専門学校、女子高等学校及び別科、短期大学、同第2部卒業生、同専攻科修了生、また前記各学校に1年以上在学し、会員の推薦を得て幹事会において承認された者。
特別会員 前項各学校の教員であった者。
名誉会員 本会に特別な功労があった者で、幹事会において承認された者。
(役員)
第5条 本会には次の役員をおく。
顧問 若干名
会長 1名
幹事長 1名
幹事 若干名
監事 1~2名
第6条 役員は次の方法によってこれを定める。
顧問は幹事会において委嘱する。
会長、副会長は正会員より選出する。
幹事長、副幹事長は幹事会において幹事より選出

- する。
幹事は会員より選出し、会長が委嘱する。
監事は会員より選出する。
役員の任期は3年とする。ただし再任を妨げない。役員に欠員を生じ、会長が必要と認めるときは、臨時に委嘱することができる、ただし、その任期は前任者の残任期間とする。
第7条 役員の職務は次の通りである。
顧問は会の諮問に応ずる。
会長は会務を統括し、本会を代表する。
副会長は常時会長を補佐し、会長事故ある時は会長の職務を代行する。
幹事長は本会全般の会務を処理する。
副幹事長は常時幹事長を補佐し、幹事長事故ある時は幹事長の職務を代行する。
幹事は会務を処理する。
監事は本会の会務及び会計を監査する。
(会議)
第8条 本会の会議は次の通りとする。
幹事会 必要に応じて、会長がこれを招集する。
以上の議決は出席者の過半数をもって行う。
(会費)
第9条 正会員は会費を納入し、その金額及び納入方法は別に定める。
第10条 会計年度は毎年4月より翌年3月31日までとする。
(その他)
第11条 会員は住所・氏名・職業等に関し、異動があった時はその都度本部に連絡をする。
第12条 本会則の改廃は幹事会において、出席者の3分の2以上の賛成を必要とする。
(付則)
本会則は、昭和45年6月28日より実施する。
本会則は、昭和53年6月25日より実施する。
本会則は、昭和59年6月24日より実施する。
本会則は、平成8年11月3日より実施する。
本会則は、平成15年6月2日より実施する。

小田原キャンパスは一九九一年小田原市の誘致により創立が実現したそうです。キャンパス十二万㎡の土地は市の提供によるもの（建物は大学）で、ミカン畑を利用して建設されました。なるほど辺り一面ミカン畑なワケです。その為、校地内での高低差が結構ありまして、階ごとに入り口があったりして、建物間を行ったり来たりしていると、「アレ？今何階？」といった錯覚に陥ることもしばしば…。その構造になれるまでは暫くかかりそうですね。（汗）

もちろん、建物はすべてバリアフリー。全ての人に優しい作りと環境。んー、素晴らしい。地域との密着型校とも言いましょうか、大学と地域との交流拠点となるエクステンションセンターではパソコン講習など、市民対象の講座も沢山開講されています。

現在学生は約一七〇〇〜一八〇〇名で、ほぼ神奈川県に在住の学生が多いそうです。中には静岡エリアから通学している学生もいるとか。学校までの道も、あまりに狭かったのが大学側で作ったそうです。そのおかげでスクールバスが通って快適な通学ができるようになったワケです。ただ、この素晴らしい自然環境、本当にいいのですが、学生にとっては少々困ることもあるようです。遊ぶ所やアルバイトをする所には頭を悩ませている模様です。若者にはちょっと厳しいかな？？

それでは一号館を後にして、いよいよキャンパス内探検へ出発です。

まずは二号館。二号館は図書館がメインとなっており、そこには法律の専門書がズラ〜リ。どれもこれも手にとってもさっぱり分かりません…。割と身近な民法に関する本くらいなら読めそうでしたが…。自習用の机も多く、学生はコレらの膨大な資料を使って、研究をしたり、論文を書いたり、日々精進しているのですね。

この日も土曜日だったにも関わらず、結構な人数の学生さんが図書館で勉強してました。静かな図書館で勉強の邪魔にならないよう、足早に二号館の見学を終えて、続いて三号館へ。

三号館は購買部と食堂がメイン。まだお昼には早いということでコチラは覗くだけ。そのまま七号館へ。

七号館には前述の「エクステンションセンター」があり、市民向けの講座の開講等を行っています。なので最新のPCがズラリ☆もちろん液晶画面のデスクトップ。ワタシが学生の時は、ブラウン管のデスクトップPCでしたよ…。いいな、いいな…。激しく羨ましいいなあ〜。しかし！七号館の羨ましい点はコレだけではありませんでした。なんとココにはキャンパス四〇〇名の「ハリントンホール」があるのです。

金沢八景キャンパスでいう、ベネクトホールみたいなものですね。授業はもちろん、講演や礼拝も行えるのもステキなホールです。昨年行わ



れたワールドカップもこのホールを開放して放送したそうです。学生はそりゃもう、大盛上がりだったとか。

ハリントン

ンホールに感動した一同は、つづいて四号館へ。ここは主に学生課・ゼミ室・実習室等があり、学生に最も密着した建物。この辺りから、われわれ一同はこの校地の高低差を実体験することになります。四号館はズーッと下までおりて、講義室がメインの五・六号館へ。五号館の一階まで降りて来たはずなのに、その渡り廊下を渡って六号館へ入るとそこは一階じゃなかったりしてまさに迷宮。「？？」「続きのまま外へ出て、そこから上を見上げたその景色に、いかにここまで下がってきたかを実感。そして、誰もが「また登らなきゃいけないんだよな。コレ。」と決して口には出さずに強く感じていたことでしょう…。

校地内の最も低い所にある体育館へ。ちょうど、授業も部活もなく、誰も使っていないだったので失礼して中へ。なんだか久しぶりに体育館の匂いを嗅いだ気がします。あの独特な木とニスとワックスの匂い。懐か

しいなあ〜。思わずラジオ体操でも始めたくなるような雰囲気でした。体育館の外に出ると、林次長が「この先の道をもうちょっとずーっと行くとグラウンドがありますよ〜。」とおっしゃいましたが、誰も「行きたい！」と志願する者はいるはずもなく（笑）だって、先生はグラウンドまで自転車で行くくらい強気のイメージで遠いんです！

そんなワケで積極的にグラウンド見学を断念して、昼食にはちょうど良い時間だったので食堂まで戻るところに。三号館のある所までヒーヒー言いながら階段を上った所でお世話になった林次長とはお別れです。お忙しい中、お時間を割いて頂き、本当にありがとうございます。この場を借りてお礼を申し上げます。

さて。再び戻ってきた食堂で、まだ数人残っている学生に混じり楽しいランチタイムのお時間です♪心なしか、メニューが充実しているように思えたのは気のせいでしょうか？しかしどれも魅力的なものばかりです。基本的に食べること自体が魅力的だったりに♪

日替わりランチのようなメニューもありましたが、ワタシは山菜冷やしうどんを注文。美味しくいただきました。そして、からあげを別に注文して、編集員一同でいただきました。コレがおいしいのなんのなんのっ!!大きさもハンパじゃないです。まさに「デカイ」そして「ウマイ」、



この表現がピッタリな逸品でした。機会があれば是非、ご賞味あれ。

お腹も一杯になった一同は、「実は裏道で駅まで二十分ほどで行けるんです」という林次長のお言葉で、帰り道は歩いてみることにしました。そして、そこで思わぬものに遭遇することになるのです。ちょうど、一番高台のあたりのプラム畑でした。「あっ！」と思った時にはソレはもう、姿を消していました。何だと思えます??何だと思えます??「猿」ですよ!「猿!」ちなみに「サル」って読みます!もう、ビックリしましたよ!思わず息を止めてしまいました。サルが目

の前を横切ったんです! 姿が見えなくなった後、「あ——っ!!」と大声を上げました。林次長に、「サルなんかもいるんですよ。」と聞いてはいたけど、ホントに見るとは思わなかったの。いやー、ビックリした。興奮状態のままテクテクと歩いて、住宅街を抜けて、パツと空が開けた場所に出ると、そこからは小田原城が見えました。その景色に「ああ、やっぱりいい所だよね。小田原キャンパス」なんて話をしな

がら、駅まで歩いて下って行きました。軽くかいた汗が、心地いい、そんな道のりでした。

ハッキリ言わせて頂くと、確かに小田原キャンパスは田舎にあります。八景や室の木に比べたら、アフタースクールを充実させるのが若者には辛い環境かもしれません。でも、あの自然環境の中で、法を学んだ人間こそが、いつか政治を動かすような法律家になれるのではないかと思えました。法律は、最も難しく、デリケートでいて、実に重要な学問です。世の中を司るものと言っても過言ではないでしょう。その法律に携わろうという人々にとっては最高の環境ではないでしょうか。あの緑に囲まれたキャンパスでしっかりと学んで、沢山悩んで、その倍笑って、立派な法律家になって下さい。まずは、その一歩をしっかりと踏み出して欲しいものです。みなさん、彼らがいれば、日本の未来は明るいですよ!

今回、小田原キャンパスにお邪魔して、新生香葉会もいっ歩を踏み出せたのではないかと思います。何事も、それを取り巻く環境や人が大切だということ。香葉会も、今までもこれからも、誰もが気軽に帰って来られる場所。そんな香葉会でありたいと思います。そして、今までよりも紙面規模は小さくなってしまいました。これからは、ネオ『香葉』をどうぞよろしくおねがいします。

本と旅

岡松和夫
(国文科教授)

去年の四月からはもっぱら自宅を本を讀んだり原稿を書いたり生活です。運動不足になって体調も少し崩しました。しかし、今は普通の状態に戻っています。

「東京新聞」に四週間に一回「読書日記」という文章を書いています。できるだけ二冊の本を取りあげ、関連づけて感想を書くのですが、一冊だけという時もあります。

去年の四月から始めて、来年の三月に終る予定です。ただ原稿を書いて新聞社に送ればいいのですが、気が引けずらされて旅に出ることもあります。学校に出かけていた時と違って、その点は自由になりました。

島崎藤村に『千曲川のスケッチ』という作品があります。作品といっても小説ではなく、短い写生文が一冊に集められたもので、藤村の青年期、小諸で先生をしていた時代の見聞を集めたものです。岩波文庫に入っているのですが、すぐ読めます。私は『千曲川のスケッチ』が大好きで何度も読み返しました。

ところが、去年のことですが井出孫六という人が『新・千曲川のスケッチ』という本を長野県松本市の「郷土出版社」から出しました。これは現代の千曲川のルポルタージュです。私は藤村作と井出作の二冊を読み比べて読書日記を書きました。

しかし、それだけでは満足できません。千曲川というものを丁寧に見たことがなかったのです。そこで去年の五月、長野県の別所温泉に出かけて小諸にも寄り、千曲川をしみじみと見ました。

しかし、小諸の辺りは千曲川の中流でしょう。そこで、八月に八ヶ岳のふもと山梨県大泉に旅した時に、同行の人の車に乗せてもらい、千曲川の上流になる長野県川上村に出かけ、今度は上流を見ました。この辺りは水流もおだやかに見えました。

川上村は藤村が小諸に暮らしていた頃は大変な奥地だったので、小諸から小淵沢に通ずる小海線ができてからは奥地でも何でもなくなり、村は高原野菜の畑が続いていました。

いかにも元気のよさそうなことを書き綴っていますが、もう荷物を持つての旅はごめんです。足の具合がすぐ悪くなります。そこで、スニーカーに必要なものを入れて宿に送り、帰りにそれを自宅に送り返すなどの工夫をしています。

去年は七月に北海道に出かけ、網走から知床と回りましたが、これもスニーカーを宿に送り、見物は車に乗せてもらう旅でした。歩くのことができるだけ節約しようというのですから残念ですが、自分の年齢や体力を考えると、まあ、この程度で我慢しなければならぬのだらうと思っています。

母校 ニュース

▽幼児教育科ホームカミングデー開催



去る平成十五年三月一日、幼児教育科主催によるホームカミングデーが母校のチャペル及び体育館で盛大に開催されまし

た。当日は大変な大雨になってしまい、気温も低かったのですが、集まった卒業生は六百有余名にもなり、急きょレセプション会場を体育館に変更しての開催となりました。

平成14年度決算・15年度予算

収入の部	14年度決算	15年度予算
会費	(18,000×712) 12,816,000	(18,000×596) 10,728,000
賛助金	581,000	500,000
預金利息	25	1,000
雑収入	133,800	5,000
前年度繰越金	2,208,101	2,519,946
合計	15,738,926	13,753,946
支出の部	14年度決算	15年度予算
通信費	2,675,909	2,000,000
印刷・製本費	1,617,442	1,000,000
総会・会費	1,144,725	1,000,000
交通費	385,130	400,000
用品費	698,590	50,000
委託費	0	-
謝礼費	24,402	50,000
消耗品費	12,801	30,000
人件費	1,287,312	1,500,000
合同同窓会分担金	213,600	178,800
新入会員歓迎費	852,600	-
慶弔費	346,275	300,000
寄付金	200,000	100,000
雑費	10,194	45,146
予備費	50,000	300,000
特別会計	3,500,000	6,500,000
名簿発行準備金	0	-
奨学金基金	200,000	300,000
小次年度繰越金	13,218,980	-
合計	15,738,926	13,753,946

▽モノキュメント完成

短期大学は人間環境学部へと改組をしましたが、短大が室の木の地であったことをなにか形に残せないものか、母校に残っている職員が中心となり、モノキュメントを制作しました。場所は図書館棟の東側、二号館との間です。正門に掛かっていた表札を中心に、聖書の言葉を刻み、校章を配置しました。聖書の文字は短大長吉田博先生に書いていただきました。

人間環境学部の新しい仲間には歴史の中に「女子短期大学」があったことを、また卒業生の皆様には母校は何時までも此処にあることをお知らせしたいと思います。

なお、製作費は香葉会と後援会からいただきました。

▽短大の先生方は今

新学部開設に伴い、元短大教員の新しい所属学科についてご報告いたします。(敬称略)

- 人間環境学部現代コミュニケーション学科
加藤紀子・金子義幸・岸 正尚
立花 桂・青柳 明・新井信一
牧野ひろ子・松下倫子・榮本和子
セーラレニシ
- 人間環境デザイン学科
水沼淑子・渡辺紀子・藤本憲太郎
山崎稔恵
- 健康栄養学科
有田匡孝・倉沢新一・吉田 博
山田哲雄・津久井学
- 人間発達学科
小室康平・鈴木秀雄・田山美智子

- 文学部比較文学科
伊東光浩・岩佐壮四郎・大越公平
矢嶋道文・富岡幸一郎
- 現代社会学科
朝倉陸夫・菊池美恵子
- 経済学部共通科目
村上 顕
- 法学部法政策学科
山下輝彦

(平成十五年四月現在)

「県央のつどい」開催について

県央のつどいの日程が決まりましたので、お知らせいたします。

日時 平成15年11月8日(出) 午後6時
場所 「上海菜館」 046-228-5956
厚木市旭町1-25-5 (小田急線
本厚木駅南口前ハピネスビル6階)
会費 4,000円(女性)
連絡先 燦葉会県央支部事務局 高田喜八
046-228-8960 (厚木ヤクルト
販売(株)内)

編集後記

学校が大学となり、総てものが変わって行きました。「香葉」も形が縮少され創刊号が発行出来る運びとなり嬉しく思います。吉田学長の温かな御気持ちに包まれて私達卒業生がこの香葉を通して繋がりを持って行けたら幸に思います。(一)

関東学院女子短期大学卒業生保育士登録手続きについて

児童福祉法の一部を改正する法律が、平成15年11月29日から施行されます。児童福祉法上に名称独占資格として規定されるとともに、保護者に対して保育に関する指導を行うことが新たに保育士の業務に位置づけられました。保育士となる資格を有する者（指定保育士養成施設の卒業者又は保育士試験の合格者）が各都道府県知事の登録を受けることにより保育士となることとし、専門職として保育士の重要性が高まっていること等に対応するため、保育士資格を児童福祉施設の任用資格から名称独占資格に改め、併せて守秘義務、登録・試験に関する規定を整備したものです。

保育士資格をお持ちの卒業生で、現在保育士として業務を行っている方は、都道府県知事に登録する必要があり、都道府県知事から保育士証が交付され初めて保育士として名乗ることができます。

保育士として業務を行っていない方は必ずしも登録をする必要性はなく、登録をしなくても、資格がなくなるわけではありません。今後、保育士として業務を行おうと考えている方は、業務に就く前まで登録をしておく必要があります。

保育士QA（登録事務処理センターホームページQA抜粋）

Q6. 保育士の登録をしたいのですが、手続きに期限はありますか？

A：手続きに期限はなく、「保育士となる資格を有する者」であればいつでも申請ができます。ただし、現在保育士として働いている方は、平成18年11月28日までに登録を受ける必要があります。

Q13. 保育士登録をしない場合、手元にある保育士証明書は無効になりますか？

A：保育士登録をしない場合でも、現在お持ちの保育士資格証明書が無効になることはなく、改めて指定保育士養成施設に入学し直したり、保育士試験を再受験する必要はありません。

登録申請の方法

登録事務処理センターに、手続きに必要な書類がセットされている『保育士登録の手引き』を請求し、記入方法に従い必要書類に記載し提出書類を添えて、申請を行ってください。

(1) 保育士登録申請書

(2) 保育士資格証明証（原本）

紛失した方は、関東学院大学 室の木校地（人間環境学部）教務課（045-786-7884）までお問い合わせ下さい。

(3) 郵便振替払込受付証明証（登録手数料4,200円の払込証明書）

(4) 戸籍抄本もしくは戸籍の一部事項証明書（婚姻により氏名が保育士資格証明書と異なる場合）

※日本国籍を有しない方で、氏名、国籍が保育士資格証明書と異なる場合は、外国人登録済証明書（登録原票記載事項証明書）の提出が必要となります。

保育士登録の問い合わせ先

登録事務処理センター

〒150-0002

東京都渋谷区渋谷1丁目1番8号

青山ダイヤモンドビル

登録案内専用電話：

0120-041943（祝日を除く月曜日から

金曜日の10時から18時まで）

音声案内及びFAX：

03-5485-3133（終日）

ホームページ：http://www.hoikushi.jp

賛助金名簿

昨年も総額五八一、〇〇〇円をお送り頂き、厚くお礼申し上げます。今後の香葉会の活動は皆様のご協力なくしては、成り立っていきません。年会費・賛助金ともお振り込みの協力をよろしくお願ひ申し上げます。（順不同・敬称略）

- 一般: 石黒頼子, 菊池安子, 矢嶋道文, 田中順子, 上市二郎, 中村英夫, 富岡幸一郎, 益昌子, 白石真砂子, 中根悦子, 平尾富子, 野牧その内, 内田駒子, 渥美裕子, 矢野ミミ子, 出榮美子, 斉藤富代, 古郡綾子, 西山澄子, 奥野節子, 大島好恵, 高橋千榮子, 英文II: 光畑清, 竹内恵美子, 白田修良, 高山政子, 新井三郎, 土山忠, 芦部九女夫, 永井正武, 飯尾恒子, 伊藤進, 錦織マサ子, 英文: 石崎キク, 中田由紀, 大高悦子, 日原美登里, 栗林芳恵, 大野澄代, 山田美穂子, 丸山勝代, 洪谷敦子, 光島洋子, 吉澤喜代子, 芳垣恂子, 中澤幸枝, 廣川美和子, 細田喜久子, 中川あや, 土田幸枝, 澤野洋子, 岡田温子, 皆美弘子, 佐々木晶美, 伊藤明乃, 長崎洋子, 近藤睦子, 佐生貴子, 菅根つかさ, 松本裕子, 菅野弘恵, 矢田宏子, 桐原千恵, 溝口泉, 内田康子, 松野文子, 越智協子, 赤沢茂子, 小佐野順子, 井田玲子, 野上妙子, 野尻直子, 影山直子, 大高あゆみ, 能勢則子, 田丸瑠実子, 藤田やす子, 牧野真澄, 青木美智子, 榛葉寿美子, 平田広美, 小濱朝子, 志賀ミチ, 中西愛子, 三富正枝, 関根幸子, 志津野彩, 石渡朝子, 葉玉由貴子, 中島久里子, 河原敦子, 露美美保子, 勝見修子, 田辺和子, 岩瀬信子, 増田安喜子, 谷田部敦子, 菅原千代子, 鈴木葉子, 附田雅子, 小林壽恵子, 加藤圭子, 朝木圭子, 山口はるみ, 山口周子, 平井道子, 田辺洋子, 辺見裕子, 田代節子, 鶴見智子, 松本佳子, 古城房子, 安藤憲子, 川島久里子, 高橋美佐子, 竹田朋子, 石井すが, 佐久間知美, 長谷川愛, 馬渡正恵, 布川優子, 太宰美紀子, 小出美智子, 田中直子, 鈴木容子, 吉田初美, 渡辺みどり, 長谷川不二恵, 齊藤郁恵, 黒山恵子, 岡崎敬子, 山口佳子, 川島久里子, 長谷川弥生, 葛城容子, 菊地和子, 仲村恵理子, 森田吉世江, 小倉綾子, 小田さゆき, 鈴木恵美子, 飯田染子, 石田禎子, 馬屋原百合子, 井上多恵子, 足立求子, 千川奈緒美, 猪鼻千代子, 池田寿美代, 安彦潤子, 諏佐靖子, 鈴木茂子, 小島純子, 増田真司, 土岐房子, 佐々木喜世美, 丸山勝子, 鈴木泰代, 潮田三恵子, 飯塚まり子, 岸貞子, 柘植早苗, 五十嵐増枝, 小俣恵子, 淵上龍美, 祖父江有加, 渡辺冴子, 星友子, 須田和子, 白井芳子, 和田信子, 清田恵美子, 大内幸枝, 山中幸枝, 青木玲子, 山内奈緒子, 渡邊淳美, 押田富士子, 丸古美佐子, 槇桂子, 松本庸夫子, 島田郷子, 勝田元子, 池田美奈子, 渡部真紀, 川面さゆり, 埴典子, 関口眞喜子, 原由美子, 大原三穂, 安藤晴奈, 景安直美, 高山めぐみ, 丸山勝子, 鈴木泰代, 藤平良子, 安藤麻有美, 野田朋子, 松本博子, 石原律子, 井上啓子, 小林サエ子, 藤原良子, 徳野麻有美, 野田朋子, 松本博子, 石原律子, 井上啓子, 小林サエ子